

第8回 雄物川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

開催日：平成27年 1月27日（火）

開催時間：13：30～14：45

開催場所：秋田河川国道事務所

参加者

氏 名 所属等

井上 正鉄 秋田大学 教育文化学部 教授

小笠原 嵩 秋田大学 名誉教授

島澤 諭 公益財団法人 総合研究開発機構 主任研究員

杉山 秀樹 NPO 法人 秋田水生生物保全協会 理事長

羽田 守夫 秋田工業高等専門学校 名誉教授

浜岡 秀勝 秋田大学 大学院工学資源学研究科 教授

松富 英夫 秋田大学 大学院工学資源学研究科 教授

附属地域防災力研究センター長

渡邊 一也 秋田大学 大学院工学資源学研究科 講師

栗林 次美 大仙市長（代理：副市長 久米 正雄）

佐々木 哲男 東成瀬村長

穂積 志 秋田市長（代理：建設部長 小野 智）

※欠席：永吉 武志（秋田県立大学 生物資源科学部アグリビジネス学科 准教授）

（事務局説明を除く、質疑応答について記載）

【報告】

- 雄物川水系河川整備計画の策定について

【連絡】

- 今後の懇談会の進め方について
 - ・河川整備計画（大臣管理区間）の点検について
 - ・事業評価（事業再評価、事後評価）の審議について

【議事概要】

○ 事業評価について（雄物川下流 特定構造物改築事業(新屋水門)事後評価）

●委員

- ・スズキやアユが海から雄物川に上る際に水門を経由して若しくは旧雄物川から水門を経由して雄物川にどれだけの量が遡上するのか把握されているのでしょうか？
また水門のところでの流速はどのくらいになっているのか？

○事務局

- ・H13～H25の結果から捕獲している在来種と移入種の数水門施工前、施工中、施工後とも種数はあまり変わっておりませんので工事の影響は無いです。また、今年の春先の調査でも H19 以来スズキの稚魚が100匹以上確認されている流速については、水門の工事前のデータではありますが、約 1m/s という結果となっております。

●委員

- ・水門を経由した魚の行動範囲についてわからないので何かしらのデータがあるかわかると思います。
次に P12 のところで同種事業とありますが、言葉として足りないのではないかと？

○事務局

- ・魚の行動範囲については全て把握している訳では、調査も定点観測で得られた結果より問題がないと考えている。
- ・事業評価は事業の特性に合わせて評価していくもので、計画したものが計画どおりに機能しているかを評価しているものです。

評価したものを次にどう活かすか考えながら実施しているが、今回の事業からはそういった次に繋がるポイントが見えにくかったためこのような記載になったものです。住民の方にも評価した結果を公表しながら事業を理解していただくために、そのためにも精度を上げながら事業の方も評価の方もやっていきたいと思っております。

●委員

- ・「同種事業」という表現ですと、生態系の違う各河川でも同じように捉えられるため、そこを良く理解した上での記載としていただきたい。

○事務局

- ・ここに記載している内容は、生態系への配慮とか水門を作る際の計画・調査に問題があったのか無かったのかを評価するもので例えば川を横断する堰を作る時は魚道と

か生態系の配慮が計画に入っているのかいないのか我々の構造物を作るときの計画・調査の考え方に齟齬があったか無かったか記載するものです。

●委員

・P10「事業を巡る社会経済情勢等の変化」のところでは三角沼でのカヌー体験等が行われてすばらしい河川環境を住民が利用している実態がB/Cに反映されているのでしょうか？

○事務局

・治水分としてのB/Cで評価しているため、水辺の利用や交通混雑の緩和といったものは入っておりません。

●座長

・旧新屋水門の改築までに70年ほどかかっているが、鉄筋コンクリート構造物の耐久年数は50年だと思うのですが、それまで改築できなかったのは予算とかの事情なのか、50年経過後で改築しなかったのは強度上問題なかったのでしょうか？

○事務局

・旧新屋水門は平成13年に一次点検を実施し、平成14年に二次点検を実施し、平成15年に補修等を実施しております。

しかし、平成18年度の土木研究所の調査で全面改築が必要と診断されて翌年のH19年から改築事業に着手しております。

●座長

・そうすると色々な構造物でもこのようなパターンで改築を行うものということでしょうか？

○事務局

・治水経済調査では一般的にコンクリート構造物の耐用年数は50年で減価償却となっており、計算上はそういう扱いとしておりますが、極力近年の財政事情を絡めて構造物の健全度調査、長寿命化計画を作っておりますので、残存価値分にはなりますけども50年以降も極力健全な状態を維持出来ればそういった形での寿命を延ばしていきたいと考えております。ただ今回はたまたま50年相当の間で施設に劣化が見られたので、そういう時期には補修履歴を見ながら構造物の適切な監視をやっていきたいと思っております。

●委員

・事後評価と言うことで5年後の効果が明確に出現されているのか、建設中の状況もどうだったのか確認したかったんですが、魚類調査結果のスライドで魚の種数も改築前後であまり変化が無く環境面では問題無かったかと感じました。

治水面でも、平成23年6月出水でも効果発揮しているため治水面でも問題無いと感じました。

この施設で守られている実態や水門の機能等を小学生の社会科見学や近隣住民へ周知し理解していただく事が必要な事ではないかと感じました。

○事務局

・せっかく作ったものが住民の方に評価されないものとなると我々にとっても事業の投資効果と言った面では考えて行かないと行けないと思っております。また、いざ洪水になったらどういう機能を発揮するものなのかをアピールしていかないといけないと思っております。

●委員

・P6の平成23年6月の大きな出水とありますが、P4～P5の方で効果が出ているということでもいいことだと思いますが、大きな出水の表現として既往何位とか規模的にどのようなものか？

○事務局

・H23洪水につきましては、樺川では、昭和22年、昭和19年、昭和30年に次いで既往4番目の水位となっております。

●委員

・川と道のアドバイザーになった時に工事中の新屋水門をよく見ておりました。環境に対してもうまく行っていたと記憶しております。

近くに白鳥の飛来場所がありますが、白鳥の飛来にも影響はなかったと思います。

●委員

・水門の改築に伴ってH23,H24に両側の歩道整備並びに車道幅員の拡幅を行い利用者からも非常に喜ばれております。また、平成23年6月の出水時には内水の被害も防がれているとのことなので事業効果も発揮されているので秋田市としても効果が大きい事業と感じています。

●委員

・鮎がこの水門を通過して旧雄物川に入って旭川に上っていますが、沢山アユの稚魚が確認されます。

ただ近年サケの遡上が見られないのが残念です。

とりまとめ結果

○事務局

・対応方針の3つ目になります。

同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性については、「今後の計画調査のあり方に活かすよう考慮することとして現状では見直しの必要性は無いと考える。」という事で修正させていただきます。

・この内容で座長の方から事業評価監視委員会に報告して頂きます。

●了承

以上